



～介護実習Ⅲ・Ⅳ 実習で学んだこと～



私は、介護実習Ⅲ（9月1日～17日）と介護実習Ⅳ（9月22日～10月17日）を、特別養護老人ホームで行いました。実習では、利用者さん一人ひとり対応の仕方が違うので、それをなるべく早く見極めて、利用者さん本人ができることはやってもらい、できないことは、やってあげるではなくお手伝いをさせてもらうという気持ちを心がけました。特に食事の介助は、私のペースではなく、利用者さん本人のペースに合わせ、しっかり飲み込みの確認をして、同時に顔色や呼吸もしっかり見て聞いて行うよう努力しました。

介護職は対人援助のため、一人ひとりに合った支援の仕方を考え、快適に生き生きと生活が送れる場を整え、『ありがとう』の一言を笑顔で言ってもらえた時の嬉しさと達成感などが味わえる、とてもやりがいがある仕事です。私は、利用者さんに対し優しく接し、小さな変化に気づくことができる、明るく元気な介護福祉士になりたいです。

短大 福祉学科 地域介護福祉専攻 2年 中村 香奈
千葉県私立植草学園大学附属高等学校出身



～理学療法士として頑張っています！～

9月20日（土）、昨年3月に大学 保健医療学部を卒業した2期生の外間さんが、大学の図書館に来ていました。外間さんは沖縄県立糸満高等学校出身。現在は理学療法士として、千葉中央メディカルセンターに勤務しています。



「就職して現場に出ても、日々勉強です。近々、科内で研究発表があるので、今日は大学の図書館に資料を見に来ました。

植草学園大学では在学中、卒業研究以外にもいろいろな研究活動の機会をもちました。現在、私が勤める病院にも保健医療学部の

の松田先生と後輩学生が研究に来ています。医療現場で新しいことを勉強したり研究できることは、とても幸せだと思います。

私は就職してまだ2年目、メンタル面で落ち込んでいる患者さんに向き合うのは難しく、大変な時もあります。しかし、治療効果が出て患者さんが良くなって、それを喜ばれた時や、退院後、違う科へ外来で来られた時に、元気な顔を見せてくれた時など、理学療法士としてのやりがいを感じます。」

大学 保健医療学部 理学療法学科 2期生 外間 紗知さん



～東北復興支援研修 宮城県仙台市・石巻市にて～

本学では、平成19年度に起きた中越沖地震でボランティア派遣をして以来、災害支援に取り組んできました。

今年は、学生50名が8月24日から26日にかけて、2泊3日で東日本大震災から約3年半経った仙台市、石巻市を訪問し、復興の取り組みについてお話を伺ったり、海岸付近のゴミの清掃のボランティアを行ってきました。

お会いした方の中には、今なお仮設住宅にお住まいで、また、ご家族など大切な人を亡くされた方もいらっしゃいました。どの方も、当日の様子や教訓など熱意をもってお話しくださしました。大川小学校の参観では、お話の途中涙を流す学生も多く、学生が各々、震災に対しての感性を高め、未だ道半ばと言わざるを得ない復興への支援、また、今後の防災・減災への取り組みを胸に誓いました。



仙台市蒲生地区
～ゴミ拾いボランティア～



仙台市閑上地区
～山の上まで水が来た日和山の上で～

参加学生からの感想

・今回お世話になった方々は、たくさんの悲しみを経験されました。しかし、家族などの大切な人、大切な場所を無くしてもずっとその場において、その場で生き続けている強い方々でした。どの方のお話を聞いても、ずっと忘れることのない悲しみと、そして、これからの希望も感じました。

・自治会長さんは「もし震災が起きたら逃げる時は一人で逃げるのが鉄則」と繰り返し仰っていました。『自分の命を自分で守る』ことは、他者を見捨てることではなく、皆が同じ方向に逃げていくんだと『お互いを信じる』ことだと。この言葉はコミュニケーションの原点であるように感じました。

・「できる人が、できることを、できる限り」という言葉を心にとめて、また被災地ボランティアに参加したり、復興の力になりたいと思いました。

・被災地の復興が進めば進ほど、被災者のこころの復興とはほど遠くなりがちで、孤立死も増えていきます。これからはますますこころに寄り添うことが必要だと思いました。

・除塩がようやく終わった黄金色の田んぼが広々と続く景色に、確実に一步一步復興している喜びを感じました。

